町並み通信・第4号　平成13年7月3日発行

鯖街道 熊川宿

若狭熊川宿まちづくり特別委員会
福井県遠敷郡上中町熊川
TEL／FAX (0770)62-0330

―峯遊歩道から熊川宿を望む

全長一、一キロメートルの熊川宿を、お向かいの最近開通した一峯遊歩道を登って、頂上から眺めて見ました。

町並みの西側向こうには、小浜湾をすぐそこに見ることができました。少しづつ小浜から上り、熊川の谷間に道が連なっています。

この細き谷に、深く長い歴史があるのだなー、と今更ながら、深い感慨にひたってしまいました。

そして、街道の両側に、家々が実に仲良く寄り添って建ち並んでいます。人間が建ててきた家々ですが、その古い伝統的な建造物の建ち並びは、先人の苦労の中で築かれてきた美しい規則性を見せてくれています。

山上からのこの眺めは、美しい町並み景観であるとともに、美しい人間の共存関係を教えてくれるものです。もっと言うと、仲良きことの喜びを、無言で語っているのだと思いました。

熊川宿……1
寄稿文……2
寄稿文・話題……3・4
活動報告・行事……5・6

ものづくりの喜び

数寄屋大工　米田政司

熊川宿町並み通信より『熊川の町並みで最も京側にあるのが上ノ町です。さらに道は峠を予感させる登り坂となりながら京の都へと進んで行くのです』と言う風に紹介されて居ります。

鯖街道を通じて熊川と京都は深いつながりがあり、昭和二十七年より京都に五十年住んで居りますが何か親近感と喜びを感じて居ります。

現在は京都西陣の町家大工として毎日汗を流して居ります。熊川宿も区民の皆々様をはじめ、まちづくりの各委員会の先生方皆様の御努力で景観の整備が進められ、町並みも昔の宿場町らしく美しく甦りつつありまして見る度にうれしく感激して居ります。

京都は特に増改築中心の町でもありまして私達の業界も町家再生委員会、木の文化研究会、古材バンクの会等組合組織の外で色々と勉強会をやって居ります。京都でも旧市内に町家と呼ばれる古い木造住宅は三万軒あるそうです。その中で殆どが住みにくいとか老朽化とかの理由で壊されて行く運命にあります。木造建築の素晴しさを再認識して大工の職人として自分の技を役立てたいと思う毎日です。家一軒分の膨大なゴミの量、大工や左官など伝統の技の継承や研鑽、町並み保存、そしてお施主様の懐具合など総合的に考えても壊すより快適に暮らせるように再生する方が合理的なんです。そのような事を証明するために私達の組合と建築学園が組合会館前の築九十年近い町家を買入して再生を試みました。現在は伝統建築を学ぶ校舎として活用し、ハードソフト両面の町の財産を次代につなぐという試みです。

よしやまちの町家（京都市上京区）

町家モデルハウスの内部

熊川宿町並みの保存再生にも八ウスドクターとしての地元の大工職人さんにも頑張っていただきたく思います。ものづくりということは縄文時代以来の日本のよき伝統でもあります。ものづくりの精神が現在では衰退して私達職人を3Kと言って軽蔑し、濡れ手に泡で金をもうけることをよしとする風潮が全体に見られるようです。職人の誠実な魂を取り戻して先人の知恵を借りながら、今後熊川宿の益々の発展をお祈りいたします。

米田政司先生のご紹介

昭和四年　上中町脇袋生まれ
昭和六二年　優秀技能者京都府知事表彰受賞
平成三年　卓越技能賞大臣表彰受賞（現代の名工）
平成五年　勲六等瑞宝章受章（春の叙勲）
平成七年より　上中町伝統的建造物群保存地区保存審議会委員

趣味は熊川宿 ―父の思い出―

亀井　浩

先日、宿場館の河合さんが「清先生にいわれてやり始めました。」と見せてくれたのは、熊川の町並みを復元する資料でした。その時、思い出したのは、大きな山絵図を拡げて、一軒一軒の家の名前を鉛筆で落とし込んでいる生前の父の背中でした。いまだに完成を見ない仕事ですが、父の遺志は、確実に受け継がれていることを改めて実感し、胸が熱くなりました。

昭和五十年代に父が講師として御用日記などの勉強会を続けていたことを記憶しています。よく「おまえ、これ読めるか。今度の勉強会で出す例文や。」といって出してきたものです。「大学の古文書講座の勉強と同じレベルやで。これ難しいわ。」と答えても、「そうかな、みんなこれぐらいは読めるようになっているはずや。」と自信をもって、例会に出かけていきました。その時代に蓄積された参加者の実力や情熱が、現在も、文書の里グループの活動の原点になっているものと思います。

父の遺品を整理している時、古びた茶色の封筒が出てきました。

家造りは私作り

宮本宏子

一間半のキャンパスを通して見える向い山の杉木立。庭には百年はたっているだろうか、一位の木がうまいこと外からの視界を遮断しあたり一面は銀世界。

改築を完了し入居した一月の大雪が、私の心をなごませ感動を与えてくれました。

主人に「食事をしながらこの景色が見られるなんて最高や！それも自分の家の山やで！小学生がスキーをして遊んでいる様子もやで！」と言いながら、五年前を思い出しました。

重伝建選定を受けて改築しようとする主人と雪の降る夜、大学の先生、教育委員会、設計士さんとの話し合いの場が持たれました。

私は「こんな家を残すなんて！小屋やんか、もっと立派な柱や梁の家やったらいいけど。」と反対してその年は中止する事となりました。

まがりから下ノ町を見ますと、美しい町並み。とりわけ妻入りの屋根が続く雪景色の景観は失いたくないとは思っていました。しかし、生活する上でこの屋根こそ私の悩みとしている所であります。

雪が降るととなり合った屋根のわずかな空間のみぞに雪が落ち、あげくのはては家と家の間にびっしり雪が積もり、とゆや下身まで寿命を短くしてしまうのです。

私の期待に反して次々と改修されていく熊川の町並みを見て、自然の成りゆきにまかせ決断の時期がやってきました。

改築するのに、基礎を道の高さ以上上げること、屋根の雪対策をかかげ大改修に着手しました。

八ヶ月に及ぶ改修工事に主人と二人、毎日喧嘩をしながら家造りに参加できた事は、生きがいでもありました。

改修後も結局雪対策は融雪装置の方法しかなく断念し、一日中真っ暗なたたみの居間の不満もありますが、帰郷してきた娘たちが、この古家の玄関から入り、「この部屋（真っ暗な居間のこと）なんとなく落ちつくわ。」と喜んでいる言葉で、この不満もふっ飛ばせてくれました。

会長様が常々おっしゃっています「まちづくりは人作り」の通り、『宮本家の家造りは私の人作り』でもありました。

この改修工事にたずさわって下さいました方々と、町の御理解のもとに完成致しました事に感謝しお礼を申し上げます。

昭和五十五年十二月の日付けが入っている文化庁建造物課のもので、法順寺を視察に訪れた文化庁の方の手紙でした。「その際伺った熊川宿保存の件、町並み保存の担当官に話しておきました。資料を是非ほしいとの由でした。」と書いてありました。

この手紙で熊川宿が初めて国に認知され、重伝建の選定の出発点になったと考えられます。

故 亀井清先生のプロフィール

大正2年生まれ。教諭や校長を経て教育長などを務められる傍ら熊川宿の重伝建選定に向けて尽力されました。
写真は、昭和56年11月・勲五等双光旭日章受章時（当時71才）

その後、選定までの紆余曲折については、家庭では、ほとんど語りませんでしたが、顔色や言葉の端々から、時々の状況を推察することができました。

一時期、謡や盆栽あるいは水墨画に凝ることがありましたが、父は本質的には無趣味な人間でした。

別な表現をすれば、☒趣味は熊川宿☒であったといっても過言ではないと思います。同時に、☒熊川の再興☒を夢に見て、ライフワークにしていました。その夢は、まちづくり特別委員会の活動に引き継がれていて、活発な活動が展開されている様子を見聞する度に感謝の気持ちで一杯になります。

ありがとうございました。

子どもたちへ

永平隆子

熊川宿に嫁いで、早十二年の月日が流れ、今では五年生になる双子の娘と三年生になる息子の母親となりました。一方熊川は、国の重伝建の選定を受け、最近ではたくさんの人が訪れる様になってきました。電柱が街道から姿を消し、道路はジャリ道風の舗装になり、街道沿いの前川は、石積みとなりました。そして、民家も町並みに沿った改装が行われ年々素晴らしい町へと変化をしています。しかしここに至るまで長い歳月と、実に多くの方々の御尽力があったのだろうと最近まちづくりのお手伝いをするようになって、特に強く感じています。

今後熊川宿がどのように発展していくかは想像もできませんが、ただの観光地ではなく、憩しの空間として残していって欲しいと思います。

話が十三年前（私がまだ独身の頃）にさかのぼりますが、上中で『緑と平和のコンサート』という企画に参加しました。この時、フォークシンガーの笠木透さんという方にきて頂きました。その方の曲の中に今なお心に残る曲があります。

『私の子どもたちへ』という曲です。

☒生きている鳥達が生きて飛び回る空をあなたに残しておいてやれるだろうか父さんは…　生きている魚達が生きて泳ぎ回る川をあなたに残しておいてやれるだろうか父さんは…　生きている君達が生きて走りまわる土をあなたに残しておいてやれるだろうか父さんは…☒

確かそんな詩の曲でした。

我が子を持ってから、いっそう心に染みる曲となりました。そして熊川宿は、憩しの空間であり、その素晴らしいものを大切に次の世代へと引き継いでいけたらいいなと思います。

子どもたちが成長して、年老いても今と同様に感じてくれるような、そしてまた守り継いでいきたいと思ってくれるような熊川宿であってくれることを祈っています。

一峯（いっぽう）（一方）に遊歩道が完成

かつて山の上部を開墾してサツマイモを栽培したといわれる一峯に、全長一、三〇〇☒、道幅六〇☒の遊歩道が整備されました。

中腹からは、熊川宿の町並みを、山頂からは小浜湾や大島半島までをも見渡すことができ、遠足やウォーキングコースとして話題を呼んでいます。

登り口は、熊川小学校前の町道を大杉方面へ一☒程進んだ『美林街道』の看板があるところです。

4月15日登り口にて高木龍彦宮司に来ていただいてシーズン中の安全祈願と、山開きのテープカットが行われました。

一峯遊歩道整備の目的や、敵策の心得を記した案内板が設置されました。

2/23 紙すき研修会

一滴文庫で紙すきをされていた酒井由美子先生を、名田庄村の工房にお訪ねしました。熊川特産の葛（くず）の繊維を使った紙が出来ないか、ということもお尋ねしながら、紙すきの工程について教えていただきました。

3/5 矢野先生による学習会

コミュニケーション戦略の指導者・矢野惇之輔先生を迎えて学習会が開かれました。

商店主や区民が集まり「地場産業を活かしたまちづくりを…」と、講演やアドバイスをいただきました。

3/17 熊川宿から生中継

テレビ朝日系朝の情報番組『朝だ！生 です旅サラダ』の中で熊川宿から生中継が行われました。

早春の町並みをはじめ、鳴屋さんのかわと、逸見酒屋さんの水路、月屋さんなどが紹介されました。

3/23 兵庫県山南町一行が来訪

町並み散策の後、逸見勘兵衛家で熊川グループが作った蔓（つる）細工を集めて意見交換をしました。

「平面的な作品も取り入れて、編み方の美しさを出したらどうか。」などの提案がありました。

3/24 三沢プロが町並み撮影

全国の重伝建を撮られている三沢博昭プロカメラマンが三年ぶりに熊川宿へ撮影に来られました。

各地の写真とともに、全国伝建保存地区協議会発行の冊子『歴史の町並』に掲載されました。

4/10 水戸黄門のロケ

人気時代劇『水戸黄門』のロケが行われました。

水戸光圀役の石坂浩二さんや由美かおるさん、加賀まりこさんら一行が来られ、大勢の見物人が見守るなか熊川宿を舞台に撮影が行われました。

5/3 白石神社の例祭

白石神社の例祭が行われました。

初めに子どもたちが神社や、本陣となる熊川児童館内の見送り幕の前でお囃子を奉納。

その後、太鼓や笛、鉦の賑やかなお囃子に合わせて御輿が区内を練り歩きました。

5/12 第一回まちづくり特別委員会

本会の委員が改選され、多くの女性の方にも入っていただきました。

七月に開催されるフォーラム等の行事計画や活動方針、みんながよくなるまちづくりについて話し合われました。

松木神社参道と散策路を整備

松木神社参道と、参道から白石神社参道をつなぐ長さ一五〇㍍、幅〇、九㍍の散策路が整備されました。

山道を整備し、石畳を敷いたこの散策路からは熊川宿の家並みが見渡せます。

また砂防ダムも整備されました。

御蔵道（おくらみち）を整備

国道と街道をつなぐ『御蔵道』が整備されました。地道風の舗装がされ、石垣や板塀が深まりゆく縁と調和しています。また、脇を流れるせせらぎは涼しげな水音を立て、心地よい路地の空間となっています。

熊川宿西口公園を整備

下ノ町の入口で、熊川宿の西玄関『熊川宿西口公園』が整備され、駐車場が完成しました。

これで駐車場は、東口の道の駅、中ノ町の郵便局横、熊川児童館横と併せて利用でき、一層便利になりました。

予告

熊川宿がタイムスリップ…とある時代の賑わいを再現。

熊川いっぷく時代村

とき 平成13年**10月13日㊏㊐14日㊐**

ところ 福井県上中町熊川宿一帯

主催：熊川いっぷく時代村実行委員会

龍屋でござる in 熊川宿

恩地美佳 民謡ライブ

イベントごあんない（予定）

- 熊川音頭&てっせん踊り
- まちかどの芸能
- ちょうちん御輿&親子みこし練り歩き
- 鯖街道の観光物産広場

など

㊏なつかしくも楽しいイベントを只今計画中！
当日は、お誘い合わせてぜひ遊びに来てください。

※各イベントは予定です。変更になる場合があります。

あとがき

青葉と調和した熊川宿の町並みに、多くの方々が訪れています。

一峯遊歩道の整備や白石神社例祭など、いろいろな活動が行われました。また、各地の方々と交流を深めました。

数寄屋大工・米田先生のご寄稿もいただき、町並み通信『鯖街道熊川宿』第四号を発刊できました。

本年は、重伝建選定五年目を迎えます。国、県、町、そして皆さんのご協力により、修理や整備も進んできました。今後は、まちづくりを進めていくための心掛けをみんなで学んでいきたいと思います。

次号は、十一月発行の予定です。皆さんのご意見、作品をお寄せください。お待ちしています。

編集委員

ごあんない

重伝建・歴史国道・水の郷 選定5周年記念
第7回 若狭鯖街道熊川宿
まちづくりフォーラム

日時：平成13年
7月22日㊏ 午前10時開演
場所：松木神社義民館（上中町熊川中ノ町）

第1部…基調講演 村田吉弘先生（菊乃井主人）
演題「こころを形にする」

第2部…熊川昔語り「魚売りの思い出」
麻中ヒサさん、尾中一枝さん、福井宇洋先生

第3部…熊川家語り「町並みにくらすこと」
藤井美栄子さん、平尾悦子さん、吉田桂二先生

第4部…総括講演 島田敏男先生（文化庁歴史景観室長）
演題「熊川の町並み保存に思うこと」

午後2時より熊川児童館にて記念イベント開催
もちつき大会と村田先生のふるさと料理教室

印刷・株式会社 吹文